

令和3年度廿日市市学力定着状況調査の結果より

廿日市市立廿日市小学校

<第3学年>

	本校	全国	60%未満
国語	81.7%	75.6%	8.8%
算数	81.2%	68.9%	9.6%

<課題と取組>

- 国語科では、ローマ字の定着に課題が見られた。タブレットでの入力等のローマ字の学習を計画的に行い、年間で継続して反復練習をする。また、相手や目的に合わせて表現する力に課題が見られた。様々な問題を繰り返し解き、また、語彙を増やすために普段の読書の質を高められるように指導していく。
- 算数科では、わり算の商やあまりの意味を問う問題や資料をもとに思考する問題の正答率が低かった。問題文から分かること、問われていることをおさえ、言葉から図や絵、そして式につなげられるように指導していく。

<第4学年>

	本校	全国	60%未満
国語	79%	69.3%	12.3%
算数	77.7%	67.3%	12.1%

<課題と取組>

- 国語科では、登場人物の気持ちを叙述から読み取ったり、文章を要約したりする力に課題が見られた。どの文章や言葉からそう考えたのか根拠を示したり、キーワードを見つけ、文章の段落ごとに要約したりするといった活動を行っていく。
- 算数科では、小数の仕組みに関する問題や図形の特徴に関する問題に課題が見られた。基本的な知識は習得しているが、それらを活用することが難しいため、様々な種類の問題に取り組むことで既習の内容を生かすことができるようにしていく。

<第5学年>

	本校	全国	60%未満
国語	75%	68.9%	13.2%
算数	73.1%	63.8%	21.5%

<課題と取組>

- 国語科では、漢字の由来や連用修飾語など、言語の学習に課題が見られた。小単元の授業だけでなく、宿題でも取り入れ、定着を図る。また、表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫することが弱い。伝えたい内容に合った資料を選べるように、資料選定の理由を話し合うなどの活動を取り入れる。
- 算数科では、分数と小数の大小比較や、かける数が空位の小数のかけ算に多く誤答が見られた。また、単位量当たりや除法を用いて記述する問題の正答率も低かった。たくさんの情報の中から、必要な情報を選び出し、思考していく力が弱いと考えられる。問題を具体的にイメージするために、関係図や数直線図、図や表などに整理して説明させるように指導していく。

<第6学年>

	本校	全国	60%未満
国語	80.4%	69.2%	8.4%
算数	83%	72.6%	11.2%

<課題と取組>

- 国語科の授業において、その物語の筆者の思いや背景を感じ取ったり、読み取ったりすることに課題が見られた。文章構成をしっかりと考えさせ、心情や言葉の意味を行間から読み取ることに、筆者の思いを理解できるように、段落ごとに要旨まとめたり、大事な言葉を見つけたりできるように短い説明文や物語文で繰り返し練習をしていく。
- 算数科では、既習事項を活用していくことに課題が見られる。タブレットドリルで1年～6年までの復習を行い、繰り返し練習することで既習事項の定着を図っていきたい。